

子育てサポートセンターあおぞらはうす

- 開設日時：月～金(平日) 9時30分～16時(要予約)
- 相談料：無料 ☎02333-2331

⑥

郷土の英傑 鮭延秀綱物語



六 最上義光鮭延城攻め

天正十二(一五八四)年、この頃山形を治めていたのは、羽州探題斯波兼頼を祖とする最上義光であった。義光は父義守など、一族の内紛を鎮め、最上家の領土拡大を開始した。

義光は天童以北の豪族等の戦いで、多様な政略を用いて着実に制圧した。庄内武藤氏と誼を交わす鮭延秀綱は義光にとって取り除く必要があった。「庄内攻めの先馬となれ」との申し出を、「庄内あつての鮭延で、どうして最上に味方できようか」と二度も断った。立腹した義光は、延沢能登守(領地は尾花沢)を大将にして鮭延攻めを始めた。

この時、秀綱は二十四歳で典膳と名乗り、兵は三百人弱であった。しかし城中では一人も討たれず、攻撃方に死傷者が出る戦いであった。間もなく雪になり、最上軍は陣を引いた。

翌天正十三年春、義光は最上の総勢で鮭延を攻めたが落城しなかった。(この時最上軍が構えていた、陣場といわれる遺構が新町正源寺裏山に二ヶ所残っている)

城内で秀綱は、自ら鉄砲をとり、門、柵を押し倒そうとした兵たち数人を撃ち落とした。また敵兵の槍を奪い戦場に駆けつけ、門際で五人討ち取ったり追い出したりして活躍した。三百人弱の鮭延軍は、数倍の最上軍と何回かの激戦があったものの、基本的には籠城戦を行ったものと思われる。また最上軍も被害を出す

無理な戦いをしなかった。

なかなか城が落ちない膠着した状況が続いた。義光は一門の蔵増安芸守を仙北(秋田県)小野寺氏に使用し、鮭延降伏の取りなしを依頼した。小野寺家臣の関口能登は秀綱に会い、降伏をすすめたが不首尾に終わった。関口氏は鮭延の家老、信田と栗田に降伏をすすめた。両人の申し出に秀綱は義光に降伏した。

最上義光の旗本分となった秀綱は、最上の武将として活躍することになる。

(真室川町歴史研究会)



城跡から眺める真室川

表紙の紹介

たんぽぽこども園 節分

2月3日(月)、たんぽぽこども園(園長・佐藤弘子 児童数109名)で節分の豆まきが行われました。こども園の豆まきは、大事な異年齢児交流の実践の場です。鬼を怖がる年少さんを年長・年中のお兄さんお姉さんがリードしながら、みんなで力を合わせて鬼退治。最後に園長先生が炒った豆をいただきました。

